

人をお迎えしてこそ地域が活性 世界遺産「玄関口」の責任痛感

一夜にして集落をさらい、ライフラインを寸断した昨年の台風12号から約半年。被害の大きかった紀南地方に活気と笑顔がかえってきた。

「おかえりJR」と書かれた横断幕の下を新大阪発のオーシャンアローが駆け抜けた。昨年12月3日。台風で流されたJR紀勢本線那智川橋梁が約3カ月ぶりにつながり、紀伊勝浦〜新宮間も運転再開、全線復旧した。横断幕は復旧を願うボランティアが用意した。「よかったね、ありがとう。と大勢から声をかけられ、鉄道マン冥利につぎる思いでした」。新宮駅長の宮田敏彦さんは笑顔で語った。

世界遺産、熊野速玉大社近くの新宮駅はホームの高さまで冠水。同線は橋梁を含め線路の95%が損傷。南紀勝浦に向かう東海方面からのルートも寸断され、大きな打撃を受けた。代替バスのやりくりを追われながら、「半年はあかんやろう…」と覚悟したが予想以上の早さで復旧。一番ほっとしたのは新大阪から特急が到着したときという。

「ここは、外から人をお迎えしてこそ生きる地域です。駅で降りた人が、商店街を抜けて観光地まで歩いていくことで町全体が活気つく。鉄道の責任の重さを痛感しました」



「『おかえりJR』の横断幕を見て、思わず涙ぐむ駅員もいました。鉄道は地域とともにあることを痛感させられました」と宮田駅長。住民と鉄道が一つになった記念として、横断幕は駅構内にかけられている。

取材協力
■JR西日本 新宮駅
 新宮市徐福2-1-1
 電話/0735-21-5234
■熊野交通 志古船舶営業所
 新宮市熊野川町日足272
 電話/0735-44-0331
<http://www.kumakou.co.jp>
■亀屋旅館
 田辺市本宮町川湯1434
 電話/0735-42-0002
<http://cameya.net/>



大きな被害を受けた熊野那智大社、大滝の姿は今も変わらず神々しい。

和歌山

Rupo

笑顔を取り戻した熊野

2011年9月、台風12号の与えた甚大な被害から立ち直る和歌山。そこには「熊野に生きる」人々の力強い「こころ」があった。

熊野の地が育んだ逞しさ 苦難を乗り越えてきた人々

古来、幾度となく繰り返されてきた水害を地域の人々は乗り越えてきた。それが「熊野に生きる」ということだ、と多くの人が言う。苦しいこともあるが、熊野の自然は生きる力も与えてくれる。「船が再び動き出した瞬間は、うれしくて、たまらんかったです。船の仕事が、こんなに素晴らしいものだったとは」。12月に営業を再開した瀨峡ウォータージェット船を運航する熊野交通志古船舶営業所長、近藤元さんは、喜びをかみしめる。周辺では家を流され亡くなった人もいた。「地域観光を支えるうちが、まず復興の火を灯さなくては。頼もしい。

それを、みんながんばってくれます。それが心の支えになった。営業再開した川湯温泉の老舗、亀屋旅館の女将、小淵恵美さんは「先代から続けてきたものを、私で終りにできない」と気丈に話す。長男で7代目主人の誠さんは、「台風もあるが、熊野の自然のおかげで自分たちがある。そこをさっすり受け止めていきたい」。熊野の地で育まれた、逞しさと大らかな心は、いつの時代も屈すること知らない。「元気に立ち直った熊野を、早く多くのの人に見てもらいたい」。こんな言葉が、何よりも頼もしい。



ウォータージェット船の小気味よいエンジン音が川に戻ってきた。「船を動かすのは、地元への期待に応える意味も大きいです」と近藤所長は話す。



川原を掘るだけで温泉が楽しめる「仙人風呂」で有名な川湯温泉。「無事やったか？また泊りにいくから…。そんなお客さんからの電話が一番の支えになった」。一緒に旅館を切り盛りする長男の横で、女将の小淵さんは気丈に笑った。